

て、利用者の目に留まるようにしている。

他にも、少しでも気温を下げるため、移動式の大形扇風機を4台設置。体育室で3台、隣り合う柔道場と剣道場兼卓球場共用で1台使用し、少しでも温度を下げる努力をしている。「扇風機の風は快適」と利用者にも好評で、結果的に運動しやすい空間の提供にもつながっているという。体を冷やすための氷も、冷凍庫に常備している。

今年からは、熱中症防止セミナーも開催し、より多くの利用者に熱中症の具体的な予防法を知ってもらえるようにした。丸橋久良館長は「リスクマネジメントは、体育施設にとって重要視されており、真剣に取

り組む意識を持っている。もっと良い例があれば、どんどん参考にしたい」と述べた。

看板やHPで徹底呼びかけ 日産スタジアム

2002年ワールドカップ日韓大会決勝戦の舞台となるなど、サッカーや陸上競技の大きな大会が行われる陸上競技場をはじめ、野球場やテニスコート、ランニングコースなどがある都市型運動公園「新横浜公園」を管理している。

面積が大きく自由に利用できる施設も多いため、利用者に熱中症予防を徹底的に呼び掛けることが第一の対策となっている。

設置している「熱中症注意」、「水分をとろう!」という看板は、カラフルでとても目立つ存在。各施設をはじめ、公園内のさまざまな場所に数多く掲げられて、高い確率で利用者の目に留まる。水分をいつでも補給できるように、清涼飲料水の自動販売機も各所に多数設置している。

一方で、遊水地としての機能を併せ持つため、場内に日陰が少ないこ

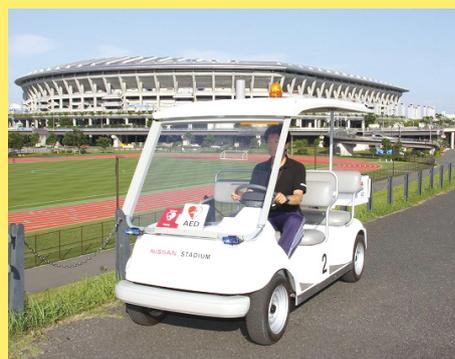


公園内各所に設置している看板
(日産スタジアム)

とが厳しい点であるという。特に、事故が起きた場合、患者を涼しい所に移動することが困難になることが考えられる。

このような緊急事態に素早く対応できるように、同スタジアムでは車内にAEDを搭載した「AEDカー」を導入している。連絡があった場合、すぐに日陰に患者を運んで救急処置を行い、重症の場合はその場でAEDを使用することによって救命率を高めることにもつながる。

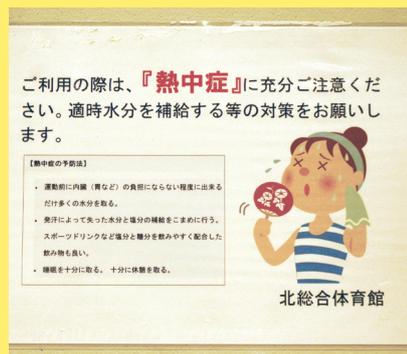
このほか、さまざまなケガや事故に対応するため、職員はAEDの活用方法や熱中症予防法、スポーツセーフティについて講習を受けるなど、危機管理に万全を期している。



AEDカートは患者の搬送など万が一の時に有効
(日産スタジアム)

ホームページによる広報にも力を入れており、「日産スタジアム(新横浜公園)安全・安心宣言」で、熱中症を含む施設が取り組む安全対策を紹介している。利用者へ安心して利用できる施設であることを周知するとともに、事故などへの対応に意識を向ける効果にもつながっている。

陸上教室である「日産スタジアム・アスレチックアカデミー」も、特別コンテンツとして熱中症対策の記事を掲載。「夏場の汗への対応」、「夏の水分補給の仕方」などを紹介し、内容を充実させている。夏場のよりよい運動方法を示すことで、事故防止を訴えかけている。



ポスターも大量に貼り付けて利用者に注意喚起
(相模原市立北総合体育館)